

# NO. 2 明日のお散歩はどこに行こう ～お散歩マップでレッツゴー！～

いこま乳児院 大倉瑤子・川田理世

## 背景

いこま乳児院では、これまで散歩コースを職員間で共有する機会がなく、職員によって散歩コースの選択肢の多さに偏りがあった。また新型コロナウイルスの影響で、生駒駅周辺などの人が多い場所に行く事を避け、院周辺で過ごす時間が増えた。これらのことをきっかけに、散歩コースを職員間で共有できるお散歩マップの作成に取り組むことにした。

## 取り組み

### 5～7月 ●情報収集

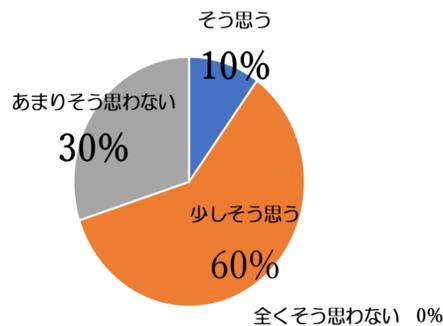
アンケートを実施して問題点やマップを作る上でのアイデアを収集する。

### ●マップ作成

収集した情報を元に作成する。

各職員が個人的に知っているおすすめのお散歩コースやポイントもアンケートで調査してお散歩マップに反映させた。

毎日の散歩にマンネリ感や不安感がありますか？



### アンケート結果

散歩に対するマンネリ感や不安感を感じている職員は全体の70%を占めていた。一番多かったのがコロナ禍で人の多い所を避けていることもあり、同じような場所が散歩の目的地になってしまうという意見だった。それに伴い、去年や今年に入職した新人職員はなかなか散歩コースの種類を増やすことができず、時間内に帰ってこられるコースが分からないことや、危険な場所が分からないなどの不安を感じていることが分かった。3年目以上の職員も、散歩コースが限られていると感じているもののコロナ禍なのではないかと感じているという結果になった。

### 8～10月

●実際にポスターを活用して散歩をするその都度意見をもらいながらマップを微調整していく。

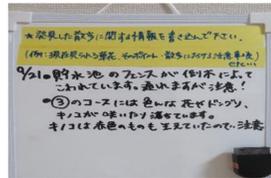
### 完成したお散歩マップ



### 工夫したこと

#### ホワイトボード

散歩中などで得た情報をみんなで書き込んで、情報を共有していく。マップに直接載せにくい流動的な情報(季節の花など)を載せやすく、新しい情報を得ることができる。



#### 周辺の風景を載せる

周辺を散歩するときを目印となる場所の風景を載せている。職員同士の情報共有はもちろん、視覚的に子どもたちも散歩コースの共有がしやすくなる。



#### お散歩ポイントの写真集

子どもたちが分かりやすいように、散歩中のポイントを写真にまとめて、視覚で伝えられるようにしている。繰り返し見て実際に行くことで、「知らない怖い場所」から「知っている安心して遊べる場所」になる。



#### 呼びやすい名前

散歩コース上の目印となる建物や道に、子どもが呼びやすい名前を付けてマップに掲載している。今まで呼称がなく、職員間でも説明がしづらかった場所の説明もしやすくなる。



#### 散歩コースの所要時間

要望が多かった、散歩コースの可視化と所要時間を掲載している。クラスの月齢や、子どもたちの身体面での発達により、所要時間は大きく変わるが、おおよその目安を掲載することで、「時間がなくて行くか迷う」という不安感を解消することができている。



### 10月～11月

#### ●評価

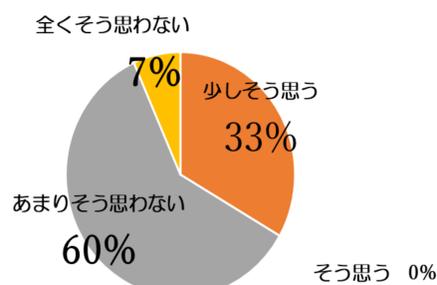
再度アンケートを実施してマップの効果測定する。

#### ●課題

マップを活用した上で見えてきた課題の洗い出しを行う。



毎日の散歩にマンネリ感や不安感がありますか？



### アンケート結果

散歩に対してマンネリ感や不安感を感じている職員は、事前アンケートでは70%だったが、実施後アンケートでは33%と、約40%減少した。具体的には、新たな散歩コースを知ったことで行き先の選択肢が増えたという意見が多かった。お散歩マップで情報を共有したことにより、必要な情報を得てから散歩に行くことができるようになったという意見や、それにより、主に新人職員が抱えていた、散歩に対する不安感も解消することができている、との意見が出た。

## 考察・まとめ

職員の散歩に対するマンネリ感や不安感を解消できた要因としては、第一に各職員がお散歩マップを見ることで周辺地理の知識が向上したことが挙げられる。さらにお散歩マップを活用することで、新しく開拓出来なかった遊び場やコースの情報が整理され、コロナ禍でも安全に散歩できる場所だと判断することができたことが、今回の取り組みの成功に繋がったのではないかと考察している。二回目のアンケートで、お散歩マップに欲しい情報は載っていたかという問いに対して全職員が「載っている」と回答していた。また、お散歩マップの総合的な満足度についても、全員が「非常に満足」または「満足」と回答していた。このことから、お散歩マップを利用することで職員のマンネリ感や不安感が解消されたのではないかと考察する。

以上のことから、今回のお散歩マップ作成という取り組みによって、コロナ禍でも散歩の内容を充実させることができた。しかし、お散歩マップの貼り出している位置が大人の目線の高さであり、子どもの目線では見難いことや、写真の載っていない手持ちお散歩マップでは、子どもが地図を理解できず一緒に見られないなど、子ども達がお散歩マップを使用する時の課題が新たに出てきた。今後は新たに出た課題の改善を行いながらお散歩マップを改良していき、日々の散歩をより充実できるものにしていきたいと考える。